

# TRY ICT やすぎ

ICT(情報通信技術)を活用した教育で学校や教室が変わる様子をシリーズでお伝えしています。

## 校務支援システム導入で教職員の負担を軽減

小中学生の頃、先生の持っていた俗称「閻魔帳(えんまちょう)」。日々の学習の成績や生活態度が記録されていくことに、怖いイメージを思い出としてお持ちの人も多いと思います。

今年度、市内の小中学校では、その「閻魔帳」の記録方法が大きく変わりました。出席・学習状況の記録や管理、職員室内の情報共有に使うグループウェア



▲システム導入により、職員朝礼の打ち合わせ時間の効率化にも役立っています。

など、校務の一部をデジタル化するための「校務支援システム」を導入しました。このシステムにより、例えば、保護者から子どもの欠席連絡を受けると、その情報は担任だけでなく学校全体で共有されていきます。子どもの育ちを教職員全体で見守るきめ細やかな指導の充実等につながることが可能となりました。

また、これまでアナログで管理していた学習状況の記録をデータ連携することで、通知票の作成から指導全般の学校の記録である指導要録(※)への記録が一元的な作業に。ペーパーレスによる教職員の情報共有で、学期末や学年末の多忙化の解消も期待できます。

このような校務のデジタル化やシステムの改良で、市内の子どもたちと共に過ごす教職員に豊かな学校の時間を生み出しています。

※「指導要録」…児童・生徒の学籍ならびに指導の過程および結果を記録。指導および外部の証明等のための原簿。

### 問い合わせ

学校教育課 ☎23-3180

## 日本遺産を巡るたたら の音色 日本遺産の 構成文化財 連載⑧



今号はたたら製鉄の技術が深く関わり、先人の知恵と自然との調和がもたらした新田開発を二つ紹介します。

安来市北西部の中海を望む荒島町日白地区に広がる、谷あいの田園。そこはたたらの技「鉄穴流し」を応用(水流土砂流し)して造成された土地で、開拓者の卜蔵孫三郎に敬意を込め「卜蔵新田」と呼ばれています。

享保6(1721)年、奥出雲竹崎の鉄師である卜蔵家から25歳の時に現在の荒島町へ移住(分家)した卜蔵孫三郎。30年以上にわたる私財を投じて新田開発や道路と河川の改修などさまざまな事業を手掛けた。なかでも、日白地区の新田開発は特筆すべき業績として語り継がれています。

日白地区にはかつて、中海の海水が入り込む水深の深い日白池がありました。これを埋め立てて新田開発する事業を、孫三郎は自ら計画し、松江藩主の許しを得て実行しました。藩や地主との折衝や、土地の選定、人や木材の手配など

非常に困難な事業を堅忍不拔(※)何事にも動ず、耐え忍ぶこと)の気性と熱烈な公共心で16年の年月をかけ、広



▲古代出雲王陵の丘から望む卜蔵新田。

大な水田の造成に成功しました。卜蔵新田だけでなく、「飯梨川と赤江の新田開発」にも、たたらが関わっています。広瀬町から安来平野を経て中海へ注ぐ飯梨川。その上流部の比田、布部、山佐などでは家島家などのたたら経営者により、江戸時代から「鉄穴流し」による砂鉄採取が行われていました。鉄穴流しは土砂の流量を加速度的に増加させたと考えられ、下流域の扇状地に何度も洪水をもたらし、長い年月をかけて安来平野が形成されました。

中海に注ぐ飯梨川河口部を有する赤江地区は典型的な三角州扇状地を有する美しい田畑が広がっています。

これは洪水を乗り越えて、新田開発をしてきた先人がくれた恵みです。

### 問い合わせ

和鋼博物館 ☎23-2500

